

助産学実習Ⅱ分娩期

I. 目的

分娩期の助産診断と産婦の状態に応じて、安全・安楽に分娩介助ができる能力を養う。

II. 目標

1. 分娩開始、分娩経過の診断ができる。
2. 安全・安楽な分娩介助ができる基礎的能力を習得できる。
3. 分娩が産婦・家族にとって有意義な体験と成り家族の絆が深められるようなケアができる能力を習得できる。
4. 分娩経過中の異常の判断ができるとともに適切な支援ができるための基礎的能力を習得できる。

III. 実習施設

NHO 岡山医療センター
NHO 福山医療センター
NHO 高知病院
NHO 四国こどもとおとなの医療センター
NHO 東広島医療センター
岡山中央病院
サン・クリニック
赤堀クリニック

IV. 単位数および時間数

3 単位 135 時間

V. 教育内容

1. 分娩期の助産診断・技術
2. 助産過程の展開
3. 正常分娩の介助
4. 異常分娩の助産

VI. 実習目標・行動目標・実習内容

実習目標	行動目標	実習内容
1. 分娩開始、分娩経過の診断ができる。	<p>1. 分娩開始の診断ができる。</p> <p>2. 分娩進行状態の診断ができる。</p> <p>3. 産婦と胎児の健康状態の診断ができる。</p>	<p>1. 分娩開始の診断</p> <p>1) 助産診断と助産過程の展開</p> <p>(1) 情報収集</p> <p>① 診断に必要な各種診察法（問診、視診、触診、聴診、計測診、内診）</p> <p>② 分娩監視装置の装着、波形の判読</p> <p>③ 検査データ</p> <p>④ 産婦と家族の心理・社会面</p> <p>(2) 情報整理と因子判別</p> <p>2) 分娩開始徴候の確認</p> <p>(1) 分娩開始診断と入院時期の判断</p> <p>2. 分娩進行状態の診断</p> <p>1) 分娩期の助産診断</p> <p>(1) 産婦からの電話と来院の必要性判断</p> <p>(2) 来院時の診察と入院判断</p> <p>(3) 入院時初期診断、児娩出予測時間、経過の正常性</p> <p>3. 産婦と胎児の健康状態の診断</p> <p>1) 分娩経過中の経過診断</p> <p>(1) 経過診断：分娩時期、進行状態の良否、正常逸脱の有無、異常の予測と徴候</p> <p>(2) 母体の一般状態</p> <p>(3) 胎児の推定体重、健康状態</p> <p>(4) 分娩時の出血量と母体の一般状態</p> <p>(5) 出生時の児の健康状態と胎外生活適応状態</p>
2. 安全・安楽な分娩介助ができる基礎的能力を習得できる。	1. 分娩進行に伴う産婦と家族のケアができる。	<p>1. 分娩進行に伴う産婦と家族のケア</p> <p>1) 分娩進行を促すケア（体位、リラクゼーション等）</p> <p>(1) 産痛緩和ケア（マッサージ・温罨法・温浴・体位等）</p> <p>(2) 補助動作、呼吸法</p> <p>(3) 産婦の日常生活援助</p> <p>栄養・食事、排泄、睡眠・休息、動作、清潔</p> <p>(4) 心理的援助（ドゥーラ効果、産婦の主体的姿勢への援助等）</p> <p>(5) 社会的援助（夫・家族への援助等）</p> <p>2) 優先度の決定</p> <p>3) 助産計画の立案・評価・修正</p> <p>4) 実施</p> <p>(1) 信頼関係の構築</p> <p>(2) 産婦の不安、緊張と情動変化への対応</p> <p>(3) 満足な分娩体験への支援、家族への援助</p> <p>(4) 分娩経過や予測の説明</p>

	<p>2. 経膣分娩の介助ができる。</p>	<p>(5) 分娩の準備 (6) 経膣分娩の直接介助 (7) 経膣分娩の間接介助</p> <p>5) 分娩後の評価 (1) 情報収集の時期・内容 (2) 分娩経過の診断の妥当性 (3) 分娩介助状況 (4) 評価内容の記録</p> <p>2. 経膣分娩の介助 1) 分娩の準備（環境、物品、産婦の準備、分娩野の作成） 2) 児娩出介助（肛門保護、会陰保護、児頭娩出、臍帯巻絡確認・解除、肩甲娩出、軀幹娩出） 3) 出生直後の児のケア（自発呼吸の確認及び蘇生、健康度判定、外表奇形の有無、臍帯結紮及び切断） 4) 胎盤娩出介助 5) 出血の状態の確認、出血への対応 6) 軟産道の状態の確認 7) 分娩進行に伴う異常発生の予測、予防ケア 8) 新生児の計測 9) 胎児附属物の計測 10) 出血量の測定 11) 分娩に係る記録の記載 （助産録、出生証明書、母子健康手帳の記載事項） 12) 分娩時の間接介助の役割</p>
<p>3. 分娩が産婦・家族にとって有意義な体験と成り家族の絆が深められるようなケアができる能力を習得できる。</p>	<p>1. 母子愛着形成促進の支援ができる。</p> <p>2. 産婦が出産体験を振り返り、肯定的受容の支援ができる。</p>	<p>1. 母子愛着形成促進の支援 1) 母児対面の援助 2) 祝福とねぎらい 3) 家族対面時の援助 4) 早期母子接触の援助 5) 早期授乳への援助</p> <p>2. 産婦の出産体験の振り返りと肯定的受容の支援 1) 産婦へのバースレビュー 2) 肯定的受容への支援</p>
<p>4. 分娩経過中の異常の判断ができるとともに適切な支援ができるための基礎的能力を習得できる。</p>	<p>1. 分娩進行に伴う異常発生を予測し、予防的に行動できる。</p>	<p>1. 分娩進行に伴う異常発生の予測と予防、早期発見 1) 経過中の正常逸脱、異常発生の予測 微弱陣痛、回旋異常、分娩遷延、胎児機能不全 過強陣痛、産婦の高血圧など 2) ハイリスク及び医療介入のある分娩の管理、医師との協働 (1) 誘発分娩、陣痛促進剤の使用 (2) 会陰切開及び会陰裂傷後の縫合</p>

	<p>2. 医療チームにおける助産師の役割と責任・連携の仕方が理解できる。</p> <p>3. 助産管理の視点を持ち、産科病棟の管理が理解できる。</p>	<p>(3) 硬膜外麻酔分娩（無痛分娩） (4) 帝王切開分娩（予定） (5) 骨盤位の経膈分娩（補助） (6) 双胎の経膈分娩</p> <p>3) 胎児機能不全への対応 (1) 子宮底圧迫法（クリステレル胎児圧出法） (2) 吸引分娩、鉗子分娩 (3) 帝王切開分娩（緊急） (4) 新生児仮死の蘇生</p> <p>4) 緊急時の対処法 (1) 母体合併症悪化（高血圧、糖尿病など） (2) 産科危機的出血への対応 (3) 産婦に対する一次救命処置(BLS) (4) 母体搬送、新生児搬送</p> <p>2. 医療チームにおける助産師の役割と責任・連携 1) 医師・助産師・看護師の役割と助産師の責任 2) 助産師間の連携、医師、看護師との連携 3) 報告・連絡・相談 4) リーダーシップ</p> <p>3. 産科病棟の管理 1) 分娩の特性をふまえた医療安全管理体制 事故防止、母体搬送、緊急への対応を備えた分娩環境、 物品管理（定数確認含む） 2) 産科処置や蘇生用の器械・器具の点検、整備 3) 救急薬品の種類、薬事法に基づく管理方法、定数確認 4) 感染防止 5) 情報管理 (1) 助産録の取り扱いと管理 (2) 助産業務と守秘義務 6) 災害対策・防災管理 (1) 消火設備の定位置と避難ルート (2) 平時の点検 (3) 災害発生時の初期対応</p>
--	---	--